

# 一人暮らしを支えていく



## A さんの場合

A さんは若いころから一人で生活し、身の回りのことはすべてご自身で行ってきました。しかし、事故の影響で足腰が弱くなり、転倒を繰り返すようになり、さらに物忘れも加わり、医療機関に受診、薬も処方されましたが、内服効果がはっきりせず、訪問看護が導入となりました。当初 A さんから「私はできているから大丈夫！」と拒否的な言葉も聞かれましたが、足腰が弱いという自覚があり「今よりも元気にならなくちゃね」と、私たちと一緒に体操に取り組んだり、近況を話しながらの療養相談が増えてきました。現在は、訪問看護を受けることで体調面での不安も軽減されて穏やかに過ごしています。



## B さんの場合

B さんは奥様を亡くし、高齢になってから料理や洗濯などの家事を行うようになりました。しかし、B さんは、脳梗塞の既往もあり、再発も心配され、さらに、足の皮膚状態も悪く歩行に支障をきたしている状態でした。そこで、少しでも状況が改善できればと訪問看護が導入となりました。遠方に住む子供さんは、仕事も忙しく、新型コロナの影響もありなかなか来訪できない状況です。

「この足を手術してくれるかと思ったよ」と訪問看護への期待をお話されます。手術はできないけれど、足浴やマッサージなどで少しでも良くなれば…とこちらの思いを伝え、少しずつですが状況は改善しています。



## Cさんの場合

Cさんは御主人を亡くされた後、足腰が弱くなり介護保険申請を行い、デイサービスや訪問介護を利用しながら一人暮らしをされていました。圧迫骨折や脳梗塞発症なども重なり、安否確認や内服管理等の目的で訪問看護が導入となりました。支援が整備され順調にみえた一人暮らしでしたが、認知症がすすみ、訪問時に排泄物の後始末に困っていたり、動けなくなっていたりと問題が多くなってきました。現在、私たちは訪問時に、遠方に住むご家族と連絡を取り、方向性を確認し、さらに、ケアマネージャーや関連機関と連携を取りながら、今後のCさんがどのように過ごされるのが一番いいのかを検討しています。



最近は一人暮らしの方への訪問が増えてきています。高齢者の方や持病をお持ちの方の一人暮らしは、不安も強い反面、一人で頑張っている生活をしてきた自負もあります。今まで頑張ってきたことを尊重しつつ、現在の困ったことを改善できるよう各方面と連携を図り日々の訪問看護をしています。

介護サービス・地域の方・ご家族の方の見守りなどをフルに活用しても、最期まで家で過ごすのは難しいこともあると思いますが、「できるだけ住み慣れた家で過ごしたい」思いを大事にしていきたいと考えます。

療養や介護で困ったことがあればお気軽にご相談ください。

訪問リハビリ事業所も併設しています。



**私達は皆様のホームナースです！**

訪問看護のお問い合わせは 一之瀬訪問看護ステーション  
電話 48-6615 まで